

6. 令和2年度の施策について

(1) 認知症施策について



加賀市健康福祉部長寿課

令和2年2月27日

加賀市における介護予防及び認知症施策について

(1) 啓発普及・本人発信支援

- ・認知症サポーター養成講座(キャラバン・メイト活動)
- ・地域包括支援センター(ランチ・サブセンター)・地域福祉コーディネート業務
- ・介護なんでも110番窓口設置
- ・認知症ケアパス(わたしの暮らし手帳)の啓発
- ・当事者講演会
- ★本人ミーティングの開催
- ★認知症カフェやボランティア(認とも)の育成

(2) 予防

- ・地域おたっしゅサークル
- ・元気はつらつ塾
- ・もの忘れ健診
- 脳活性化プログラムの検証(エビデンスに基づく健康増進プログラムの調査研究事業)

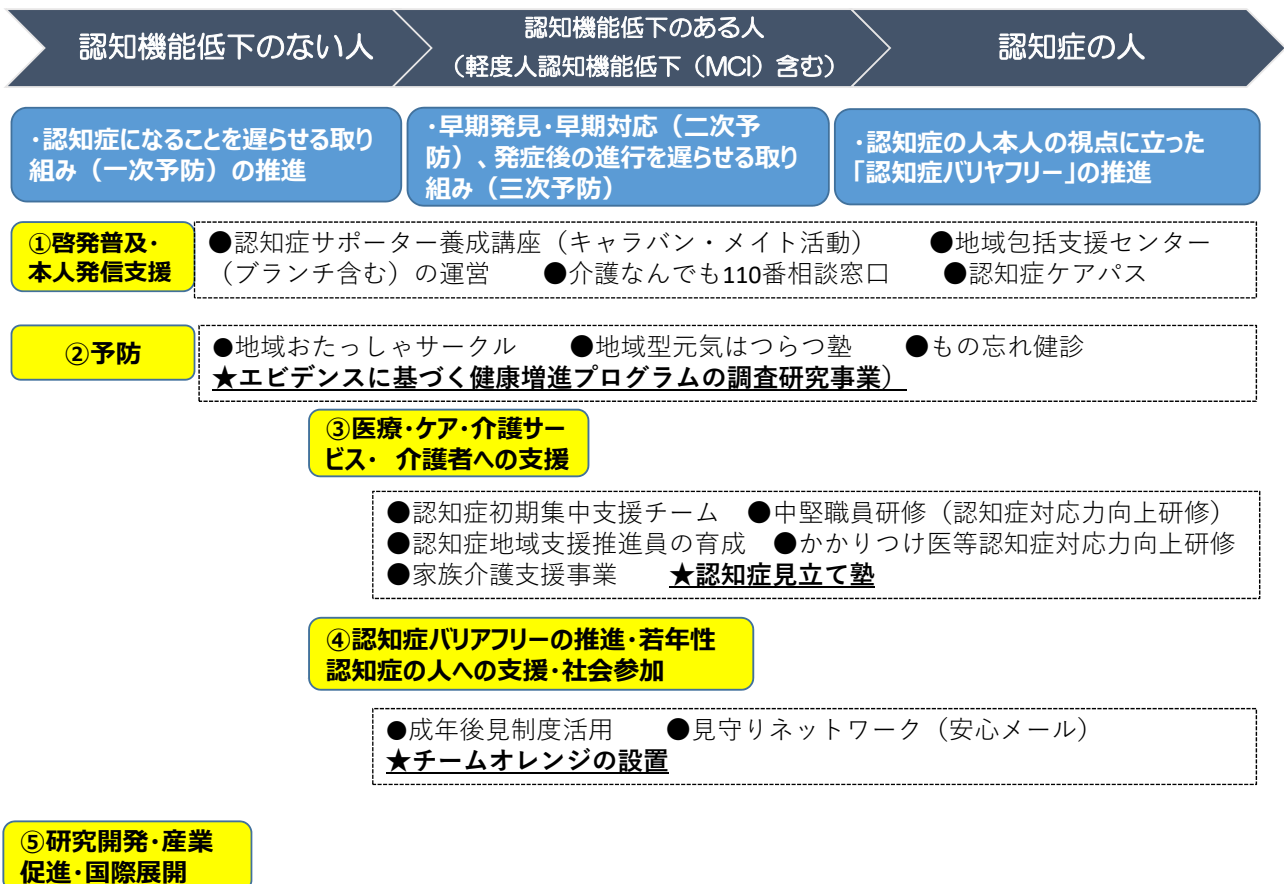
(3) 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

- ・認知症初期集中支援チーム
- ・中堅職員研修(認知症対応力向上研修)
- ・認知症地域推進員の育成
- ・かかりつけ医等認知症対応力向上研修会
- ・家族介護支援事業
- 認知症を科学的に学ぶプログラムの調査研究(認知症見立て塾)

(4) 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加

- ・成年後見人制度活用
- ・見守りネットワークの構築
- チームオレンジの設置

加賀市の認知症施策全体について



脳活性化プログラムの検証

【課題】

- ①もの忘れ健診受診後のフォローの場がない。（本人、家族は不安なまま生活している）
- ②生活に支障が出る、介護保険サービスを利用する病気は、1位が認知症である。

【地域おたっしやサークルとは】

- 身近な場所で高齢者が気軽に集まり、体操や茶話会等の活動を行っている。（介護予防、孤独感の解消、認知症予防の取り組みを実施している。）
- 市内 **77箇所 2,279名**の高齢者が参加している。
- 地域の支えあいづくりや隣近所の見守り機能の一助になっている（**互助のしくみ**）



- 高齢者が、通いの場としての「地域おたっしやサークル」に多く参加している。認知症の予防（発症予防、進行予防）のプログラムが、身近な地域で、いつでも実施されている環境を整備する。また、もの忘れ健診後のフォロー教室としても位置づけ、参加者の増加を図る。
- そのためには、いつ参加しても、発症予防・進行予防のプログラムがあることが重要。
- 認知症になっても、地域とつながる（社会参加）ことが発症予防・進行予防になる。

⇒「加賀市版脳活性化プログラム」の施行実施

- ◆平成31年度・・・手引きを作成し、地域おたっしやサークルリーダーへ研修会を実施。
- ◆令和2年度・・・サークル活動での普及・定着を目指す。

●令和2年度は、エビデンスに基づく健康増進プログラムの調査研究事業として、地域おたっしやサークルでの脳活性化プログラムの検証を行う。



認知症を科学的に学ぶプログラムの調査研究（認知症見立て塾）

【課題】

- ①住民：生活に支障が出るまで気づきにくい（認知症が進行してからの相談が多い）
認知症に関する知識はあるが、自分事として、家族として認めたくない、認められない。
- ②介護職：生活からくる変化（認知機能低下のように見える症状：便秘、脱水など）に視点が薄い。
医療との連携がうまくできない（内科疾患の把握と理解に視点が薄い）
⇒ケアだけで関わってしまう
- ③医療職：本人の生活に興味、関心が薄い⇒生活の視点でのかわり方が難しい。

【認知症見立て塾のとは】

- 地域の医療・介護スタッフや家族など身近な人が、具体的な症例をもとに考え、知恵を出し合い、認知症の改善可能な部分を見逃さないために必要な視点である、「見立て力」を身につける。
- AI（人工知能）を活用し、自分の「見立て」の偏りやクセを把握し、フィードバックすることで、ケアの視点を広げ、ケアの質を向上することを目的に実施する。

講師



上野 秀樹医師

著書「認知症 医療の限界、ケアの可能性」は、第5回日本医学ジャーナリスト協会賞<書籍部門>大賞受賞

東京大学医学部卒業。東大附属病院精神神経科にて初期研修後、東京都立松沢病院にて認知症精神科専門病棟を担当して以来、認知症医療に従事。2009年から海上療養所で訪問医療(往診)に取り組み、診察した700人以上の中で、実際に入院が必要だったのはごく少数ということが判明。認知症の見立て能力を育成する協調学習方式を開発し、全国で勉強会を開催。千葉大学医学部附属病院地域医療連携部 特任准教授。



●令和2年度においては、専門職等と共に認知症の正しい理解をするため、内容や実施回数など協議しながら実施していく予定。

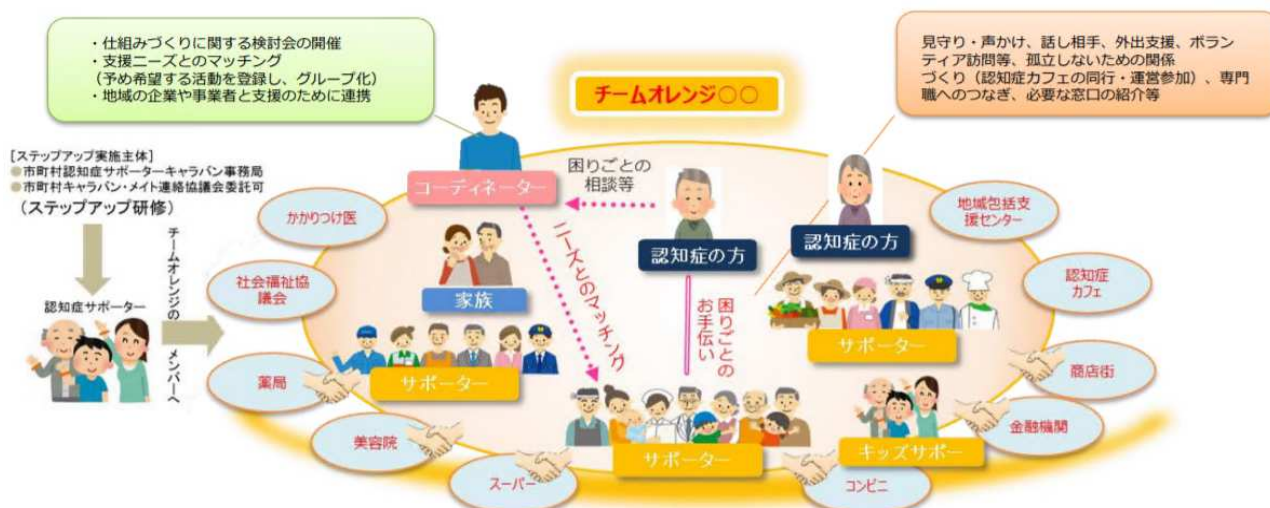
チームオレンジの設置

【課題】

- ① 認知症サポーターを養成しただけになっている（加賀市登録数5,799名 H30.3.1現在）
- ② 認知症の正しい理解をした住民が活躍できる場がない

【チームオレンジとは：認知症サポーター活動促進事業】

- 診断後の空白期間等における、ささいな困りごとに対する支援体制の構築を進める。
 - 認知症の人の支援ニーズに認知症サポーター（※）等をつなげる仕組み（チームオレンジ）を構築し、認知症の人が安心して暮らし続けられる地域づくりを進める。
- （※）「認知症サポーター養成講座」を受講し、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する応援者



- ★ 認知症サポーターのステップアップ講座（人材育成）の実施
- ★ モデル圏域にて、チームオレンジ設置検討会を開催し、専門職や地域住民と意見交換し、その圏域にあったチームにつくりあげていく。今後は、生活圏域ごとに順次設置予定。